『一歩前進』

東京都
東京修道館
中学１年生　　関　根　季　織

剣道の稽古を始めて５年になります。小学校６年の夏まではほとんど毎日道場に通い、それが日課でした。上達する方法を考えなかったわけではありませんが、とにかく毎日道場に行くのが自分にとって当たり前だから通っていたのです。今思うと、そんな気がします。道場に行って先生の指示通りに基本打ちをし、先生から言われたことを忠実に守ろうと努力します。先生に褒められると嬉しくて一生懸命に頑張ります。そして試合のメンバーに選ばれて試合で勝つととても嬉しい気持ちでした。その時はその時で考えていたのでしょうが、「そこに道場があり、先生や仲間がいるから稽古に行く」というのが小学生の頃の私でした。

６年生の秋から４か月間、中学受験のために剣道をお休みしました。剣道に行くことが当たり前ではなくなったこの時期、勉強しながら時々剣道のことを考えました。「今頃はあの試合に向けてみんな練習しているのかなぁ」と思いながら勉強していると、無性に竹刀を振りたくなりました。そんなときには鉛筆を竹刀に見立ててすり足や面打ちの格好をしていました。そして受験が終わったその日に道場に復帰しました。

今は希望の中学に入り、学校でも剣道部に入部し道場でも剣道を続けています。また忙しい文武両道の生活が始まりました。でも、今は小学校の頃の私とは違う気がします。ブランクの４か月間に中学選びも含めていろいろなことを考えました。剣道部のない学校もあるので、将来の進路などと共に剣道を続けていくかどうかも考えました。そしてわかったことは、私は剣道がとても好きだということと、受験勉強をしっかり頑張れたのは、ぎりぎりまで勉強と両立しながらずっと剣道を続けてきたことによる精神力があったからかもしれないということでした。学校の先生方からもそう言って褒めていただきました。

館長先生はよく「剣道で得たことを日々の仕事や生活、勉強で役立てなければ剣道の試合だけが強くても意味がない」とおっしゃいます。私もこの経験を通して、毎日通っていた道場で知らず知らずのうちに、目に見えない力が身についていたのかもしれないと感じました。

そして、知らず知らずのうちに身につくものがそれだけあるのなら、自分で意識して身につけようとした方がもっとたくさんのことを学べるかもしれないと思うようになりました。それからは毎日、学校の練習や道場の稽古に行く時、「今日は遠間からの面打ちで自分の跳べる距離を把握しよう」などというように何か必ずひとつ目標を持って稽古に臨むようにしました。目標を持ってやっていくと、いらいらすることもありますが、自分の癖や弱さなど自分を客観的に見られる気がします。そして、昨日よりも今日、今日よりも明日という積み重ねを意識するようになってくるのです。今までは剣道ノートのようなものをあまりきちんとつけたことがありませんでしたが、主体的に練習することができるようになってくると、ノートに目標や実行の記録、反省と次の日の計画を書くことの意味が明確になってきて、２年生に向けてこれから実行してみようと思います。

剣道の勝負は一瞬で決まります。３分間の中で相手の一瞬の心の隙を見つけて、その瞬間に自分の打突が出せるかという集中力、判断力と心の強さが求められます。自分が仕掛けるときには、逆に相手から攻められる隙を作ってしまうこともあるので、勇気も必要になってきます。一瞬たりとも気の抜くことはできません。でも、この心と心のせめぎ合いの中から、互いにその一瞬を導き出すように誠心誠意頑張ることが、剣を交えるものの誠意であると思い、今日もそのための稽古に励むのです。修業の道は永遠に続きます。